P-2 No.3-1
婦佐職第
号
25.6.3
GAa1／1
8－2－3－1

婦人労働者並に労働者家庭婦人の互場外生活時間調査

中間報告

労働省婦人局
館内
女性と仕事の未来館
0108197 0
服部浩
参
12

序一調査方法の概要

この調査は婦人の生活時間構造を明かにするため、労働省婦人少年局が労働医学心理学研究所社会科学研究室の協力を得て行つたものであるが、早急に資料を提示する必要があるので、こゝに主要な集計結果をとりまとめて中間報告にかえる。なお本報告ではもつと詳細な分析を加える予定である。

調査事業場

京浜地帯の2工場を選定したが、1は電気機械器具工場（電話器並に交換機）他の1は製菓兼化学工場である。

調査期間

A機器工場　1950年3月17～19日　3日間（休日19日）

B製菓工場　同年　3月19～21日　3日間（休日21日）

調査対象

男女労働者並に当該工場の有妻労働者の主婦について行つた。

最初の集計予定は2工場とも夫々男子労働者50、婦人労働者100、家庭婦人50、合計400名であつたが、婦人労働者以外は回収の少いこと、記入の不正確なため、止むをえず次の人員を集計した。

	A工場	B工場	計
男子労働者	49名	25名	74名
婦人〃	101	110	211
家庭婦人	48	39	87

抽出方法

工場内での抽出には層別任意抽出法を用いた。考慮した層は次の通りである。

・婦人労働者

職員工員別

年令別－20才未満、25才未満、30才未満、30才以上

・男子労働者

職員工員別

年令別－25才未満、40才未満、40才以上

・家庭婦人

当該工場の有妻者につき

(2)

職員工員別

妻の年令別－30才未満，30才以上，子の有無別

なお本調査は労働医学心理学研究所，社会科学研究室，藤本武，斎木智夫があたり，この中間報告は藤本が執筆した。

1955年4月3日

目　次

序一　調査方法の概要

調査結果の概要

I　質問票による調査結果の概要　6

A) 男女労働者について　6

1) 調査対象の性格　6

2) 居住條件　6

3) 家族構成と賃銀　8

4) 睡眠と疲労　10

5) 家事労働について　11

6) 男子労働者は妻を働きに出す意志があるか　13

7) 婦人の労働能力と賃銀　13

B) 家庭婦人について　14

1) 年令と家族構成　14

2) 居住條件　15

3) 睡眠と疲労　16

4) 家事労働　16

5) 働きに出る意志があるか－主婦　17

II　生活時間の構造　19

A) 労働者の生活時間　19

1) 勤務日の生活時間の概觀　19

2) 休日における生活時間の概觀　20

3) 家事労働について　22

4) 文化教養と休息　23

B) 家庭婦人の生活時間　24

1) 生活時間の概要　24

2) 家事労働時間　25

3) その他　26

統計表目次

I　男女労働者について

第1表　男女労働者の本俸階級別年令別人員　6

第2表　職工員別学了別人員　6

第3表　勤続別人員　7

第4表　居住種類別人員　7
第5表　通勤時間について　7
第6表　通勤方法　7
第7表　入浴の場所ー労働者　8
第8表　燃料ー労働者　8
第9表　家族構成ー労働者　9
第10表　手取賃銀の分布ー労働者　9
第11表　内職の有無ー労働者　9
第12表　同一家計人員の総收入中に占める本人の賃銀收入の割合　10
第13表　睡眠は充分かー労働者　11
第14表　疲労について一労働者　11
第15表　婦人労働者の洗濯の範囲　11
第16表　いつ洗濯するかー婦人労働者　12
第17表　どれだけ裁縫するかー婦人労働者　12
第18表　いつ裁縫するかー婦人労働者　12
第19表　平日の炊事をやるかー婦人労働者　12
第20表　休日の炊事をやるかー婦人労働者　12
第21表　妻を働きに出したいか　13
第22表　婦人労働者の考える男女能力の比較　13
第23表　男女の賃銀　14

II　家庭主婦人について

第24表　主婦の年令分布　14
第25表　主婦の家族構成ー同居家族　15
第26表　住居の種類ー主婦　15
第27表　風呂の種類ー主婦　15
第28表　飲料水ー主婦　15
第29表　燃料ー主婦　15
第30表　主婦の睡眠は充分かどうか　16
第31表　疲労するかー主婦　16
第32表　洗濯と裁縫の程度ー主婦　17
第33表　夫の家事への手伝い　17
第34表　主婦は働きにでる意志があるか　18

III　生活時間の構造

第35表　平日における生活時間—労働者　20
第36表　休日における生活時間—労働者　21
第37表　通勤時間の所要　22
第38表　食事，身仕度—平日—労働者　22
第39表　食事，身仕度—休日—労働者　23
第40表　家事労働—平日—労働者　23
第41表　家事労働—休日—労働者　24
第42表　文化，教養と休息—平日—労働者　24
第43表　文化，教養と休息—平日—労働者　25
第44表　家庭婦人の生活時間　26
第45表　家庭婦人の食事，身仕度　26
第46表　家庭婦人の家事，労働　27
第47表　内職，文化，休息 — 家庭婦人

I 質問票による調査結果の概要

A) 男女労働者について

1) 調査対象の性格

男女労働者の年令別未婚既婚別人員、職工員別学歴別人員、勤続別人員、を示したものは第1表～第3表である。このうち特に注意すべきは、

a) 婦人労働者の年令は男子に比べると若いが、B工場はA工場に比べるとはるかに年令が低いこと

b) 未婚者率は婦人の場合ははるかに多いこと

c) 婦人の学歴は一般に低いが、A工場に比べるとB工場の方が低いこと

d) 勤続年数は婦人ははるかに短いが、B工場の方がより短いことなどである。

第1表 男女労働者の未婚既婚別年令別人員

			～20才未満	～25才	～30才	30才以上	計
婦人	A	未婚	20人	45人	19人	5人	89人
		既婚		1	4	1	6
		死別離別			1	5	6
		計	20	46	24	11	101
	B	未婚	83	16	2	1	102
		既婚		1	1	1	3
		死別離別			1	4	5
		計	83	17	4	6	110
男子	A	未婚	1	11	4	1	17
		既婚		1	8	23	32
		計	1	12	12	24	49
	B	未婚					
		既婚					
		計	3	10	2	10	25

第2表 職工員別学歴別人員

			高小以下	旧中学以下	新制以上	計
婦人	A	職員	人	20人	人	20人
		工員	70	11		91
		計	70	31		101
	B	職員		1		1
		工員	104	5		109
		計	104	6		110
男子	A	職員	1	5	6	12
		工員	26	10	1	37
		計	27	15	7	49
	B	職員	1		6	7
		工員	13	4	1	18
		計	14	4	7	25

2) 居住様件

居住種別、通勤方法、通勤時間、入浴の場所、燃料については第4～8表に示した。当面必要な点をのべると、

a) A工場では圧倒的多数が素物を使用して遠方から通勤しているが、B工

第3表　勤続別人員

	婦人		男子	
	A	B	A	B
1年未満	一人	36人	一人	2人
3年〃	38	46	9	15
5年〃	40	22	7	2
10年〃	7	1	16	2
15年〃	13	4	12	2
20年〃			3	
20年以上	1		2	1
不明	一	1	一	1
計	101	110	49	25

場では徒歩通勤者は比較的多いこと。

b) 通勤時間はA工場はB工場にくらべると長いが、両工場共、婦人は比較的近距離から通勤するものの比率が高いこと。

c) 入浴の場所はA工場では銭湯が圧倒的であるが、B工場では銭湯の外会社での入浴が比較的多いこと（Bでは相当部分は寮内会社で入浴する様子）

d) 燃料は電気の利用者は殆んどなく、ガス利用は20～30%あるが、大部分は木炭又はマキを使用している

すなわち炊事のための時間のロスが最も多い燃料を使用していることが知られる

第4表　居住種類別人員

		自宅	借家	間借	寮	社宅	アパート	下宿	不明	計
婦人	A	39人	25人	16人	15人	1人	1人	1人	3人	101人
	B									
男子	A	18	8	3	14	一	一	3	3	49
	B	10	8	3	1	2	一	1	一	25

第5表　通勤時間について

	婦人		男子	
	A	B	A	B
平均	116分	68分	128分	94分
往復1時間未満	14人	53人	3人	5人
〃2〃〃	43	47	25	15
〃2〃以上	44	10	21	3
計	101	110	49	25

第6表　通勤方法

	婦人		男子	
	A	B	A	B
徒歩	9人	31人	2人	5人
乗物	92	74	47	19
不明	一	5	一	1
計	101	110	49	25

第7表　入浴の場所ー労働者

	婦人		男子	
	A	B	A	B
自宅（寮）	9人	13人	5人	5人
銭湯	84	38	39	11
自宅銭湯	1	2	2	
銭湯、もらい湯	1	2	1	
もらい湯	4	4	1	
会社	2	21		9
会社銭湯	2	5		
会社、自宅		1		
不明	2	4	1	
計	101	110	49	25

第8表　燃料ー労働者

	婦人		男子	
	A	B	A	B
ガス	9	6	10	2
ガス、石炭、マキ、豆炭	ー	1	ー	ー
ガス、木炭	5	1	1	2
ガス、木炭、マキ	2	1	ー	2
ガス、マキ	3	3	4	2
ガス、電氣、木炭	2	ー	ー	ー
ガス、電気、マキ、木炭	ー	ー	1	ー
ガス、電氣、マキ	1	ー	ー	ー
ガス、煉炭	ー	1	ー	ー
電氣	ー	ー	ー	ー
電氣、マキ	2	ー	1	ー
電氣、木炭	1	1		
電氣、木炭、マキ	ー	1	2	1
電氣、石炭、木炭	ー	1	ー	ー
木炭	13	8	6	2
木炭、豆炭	1	ー	ー	ー
マキ、木炭	36	38	17	10
木炭、マキ、豆炭	4	ー	ー	ー
マキ	15	27	5	3
わら	ー	1	ー	ー
マキ、豆炭	2	1	ー	ー
木炭、石炭、マキ	2	12	ー	ー
コークス（石炭）	ー	3	ー	ー
不明	3	3	2	1
マキ、石炭	ー	1	ー	ー
計	101		49	25

3）家族構成と賃銀

家族構成は第9表に示す如くであるが、注意すべき点をあげると、

a）同一家計人員と同居人員は殆んど一致しているが、後者の方が若干少いこと

b）両工場を通じて婦人労働者の平均家族人員が大いこと。（このことは婦人の家計補助的性格と関聯が深い）

c）婦人労働者の同居人員は本人を合せて、A 4.20人 B 5.56人 A 3.46人 B 4.22人で工場間に相当のちがいがあり。

手取賃金の分布を示したのは第10表であるが、これによつても婦人労働者の賃銀が低いことが分る。　しかしA.B両工場を比べると、B工場の方がより高いことは留意せねばならぬ。

第9表　家族構成－労働者

	同一家計人員				同居人員			
	婦人		男子		婦人		男子	
	A	B	A	B	A	B	A	B
1人	10	1	11	3	10	1	12	3
2人	21	8	4	5	22	8	4	5
3人	13	17	8	1	13	17	8	1
4人	14	13	13	5	14	13	12	5
5人	14	14	6	3	14	14	6	3
6人	6	15	3	5	7	15	4	5
7人	7	9	3	1	6	10	2	1
8人	8	13		1	7	13		1
9人	2	10		1	3	10		1
10人	4	5	1		3	4	1	
11人								
不明	2				2	5		
計	101	110	49	25	101	110	49	25
平均	4.28人	5.59人	3.55人	4.2人	4.20人	5.56人	3.46人	4.2人

次に内職を見ると、「内職あり」というものは次のものであつて、割合は低い。

第11表　内職の有無－労働者

	婦人		男子	
	A	B	A	B
合計	101人	110人	49人	25人
内職あり	7	2	1	1
不明	3	—	—	—

又A工場の婦人労働者で内職の多いのは、年令が若いのにむしろ賃金の低いことが原因であろう。

最後に婦人労働者の家計補助的性格の一端をみるために、同一家計人員の総収入の中で、本人の賃銀収入の占める割合の分析をみたのが第12表である

第10表　寄取賃銀の分布－労働者

	婦人労働者		男労働者	
	A	B	A	B
～2000円未満	1人	1人	人	人
～3000円〃	9	4		
～4000円〃	38	20	4	
～5000円〃	29	48	6	4
～6000円〃	12	12	3	5
～7000円〃	4	3	6	4
～8000円〃	1	2	5	2
～9000円〃		1	7	2
～10,000円〃			8	2
～11,000円〃			—	1
～12,000円〃			7	1
～13,000円〃			1	—
～14,000円〃			1	1
～15,000円〃			—	—
15,000円以上			—	3
不明	7	19	1	1
計	101	110	49	25

3。

これによると、男子の場合は圧倒的に100%であるが、婦人の場合は100%のものは少く、大部分は20%未満～40%未満に分布している。もちろんこの%の低いのは一部は婦人の低賃金にも起因するが、婦人労働者の家計補助的性格を示すものである。

なお婦人の場合の不明は全部家計補助的性格のもの婦人の100%の大部は独身者である。

オノ2表　同一家計人員の総収入中
本人の稼銀収入の占める割合

	婦人		男子	
	A	B	A	B
10%未満	人	人	人	人
20 〃	15	21		3
30 〃	20	25	2	3
40 〃	14	20		
50 〃	8	9	3	2
60 〃	4	3	2	1
70 〃	2	1	1	
80 〃	2	1	1	
90 〃	1			
100 〃				
100 %	25	10	38	15
不明	10	19	2	1
計	101	110	49	25

4) 睡眠と疲労

睡眠が充分かどうかについては次の如く回答されている。

第13表　睡眠は充分か一労働者

	婦人		男子	
	A	B	A	B
睡眠充分	61%	79%	33%	17%
不充分	27	16	9	3
不明	13	15	7	5
計	101	110	49	25

すなわち、婦人労働者の睡眠時間は多いことにもとずいて一般迄参照一婦人の方が睡眠の不充分さを訴えるものが多い。

疲労の程度は、次表の如く、婦人労働者に「つかれない」というものが少く、つかれる又はとてもつかれるというものが多い。これは一般的に日婦人の身体的拘束、家事労働をも負担させられていること、睡眠時間の短いことなどと深い関連がある。

第14表　疲労について一労働者

	婦人		男子	
	A	B	A	B
つかれない	14%	19%	15%	8%
つかれる	75	66	29	14
とてもつかれる	6	19	4	—
不明	6	8	1	3
計	101	110	49	25

5) 家事労働について

一婦人労働者だけについてのべる一洗濯は、次の如く自分のものだけというものが最も多く、次は家族のものの一部をやるものであるが、15%前後の婦人は家族全員の洗濯をひきうけている。しかもこの大部分は他に18才以上の婦人のいない家族から通勤する婦人である。

第15表　婦人労働者の洗濯の範囲

		自分のものだけ	家族の全部	その一部	しない	不明	計
	B	68	11%	28%	—	3%	110
	A	43	16	40	1	1	101
内訳(A)	18才以上の婦人がいる	32	7	39	1		79
	18才以上の婦人がいない	—	9			1	10
	独居	10					10
	不明	1		1			2

それはいつするかというと、次の如く大部分は主に休日と答えている。

第16表　いつ洗濯するか－婦人労働者

	主に休日	主に平日	どちらも	不明	計
A	69人	6人	30人	2人	101
B	75	3	30人	2	110

第17表　どれだけ裁縫するか－婦人労働者

		自分のものだけ	家族の分全部	その一部	不明	計
B		70人	10人	40人	人	110人
A		34	14	52	1	101
内訳	18才以上の婦人がいる	27	6	46		79
	全上いない		8	2		10
	無答	7		2	1	10
	不明			2		2

第18表　いつ裁縫するか－婦人労働者

	主に休日	主に平日	どちらも	不明	計
A	44	4	53		101
B	62	3	43	2	110

第19表　平日の炊事をやるか－婦人労働者

	朝	朝夕	夕	やらない	時々	不明	計
A	13	19	3	57	8	1	101
B	18	7	4	74	—	7	110

第20表　休日の炊事をやるか－婦人労働者

	朝	昼	夕	朝昼	昼夕	朝夕	朝昼夕	やらない	時々		不明	計
A	2	5	9	3	13	4	28	24	24		4	101
B	11	14	10	4	18	5	16	28	28		4	110

次の裁縫では、B工場は自分のものだけというものが最も多いが、A工場では逆に家族の分の一部をするものが過半を占める。

又層別には洗濯の場合と同じ傾向が見られる。

炊事については平日はやらないものが過半を占めるが、その率はB工場の方が高い。

又炊事をするものも朝だけする型、朝夕型、夕だけする型の三つがあるが、朝型又は朝夕型が多い。しかもこの型はAB両工場で相当のちがいがある。又当然のことであるが、18才以上の婦人のいない場合には全部朝夕型である。

休日になると、やらないものが少くなるが、大体25%前後である。炊事をするものの型のうち多いのは、B工場では1食だけ、A工場では3食共であるが、これでも二工場間に相当のちがいがある。

6) 男子労働者は妻を働きに出す意志があるか。

妻を働きに出す意志ありやについては、次の如く大部分のものにはない。

第21表　妻を働きに出したいと思うか。

A工場のみ

	18才以上の婦人あり	それのない場合	計
意志あり	2	2	4
意志なし	9	17	26
不明	0	2	2
計	11	21	32

次にその理由をみると、働きに出す意志のあるものは全部、「生活が苦しい」をあげるが、反対者の意見は、子供と家事をあげるものが大部分で、3名が病弱又は健康上の理由をあげ、1名は「女の天職は家庭をまもることだ」といい、又ある労働者は「家庭不和の原因になるから」といっている。

7) 婦人の労働能力と賃銀

第22表は、「同じ職場の同年令の男の人に比べてあなたの能力は劣ると思いますか」という傾向に対する婦人労働者の回答を整理したものであるが、A工場とB工場ではちがった傾向もみられる。

A工場では「同じ位だ」というものが40%をこえ、「少し劣る」が25%「劣る」が14%であるが、Bでは不明が40%を占め、36%が「同じ位」「劣る」と「少し劣る」で約20%である。B工場では、男女の作業内容が余りにもちがうのでこういう結果になったのであろうが、双方を通じていえることは、「勝る」というものは非常に少く、「同じ位」が最も多く、「劣る」と考えるものが30%前後を占めていることである。

第22表　婦人自体の考える男女の能力の比較

		劣る	少し劣る	同じ位	むしろまさる	不明	計
合計	A	14人	26	44人	8人	9人	101人
	B	7	14	40	5	44	110
学歴別	高小以下	12	16	27	6	9	70
	中等以上	2	10	17	2		31
A年令別	20才未満	3	6	6	1	4	20
	23才 〃	5	12	23	3	3	46
	30才 〃	2	7	11	2	2	24
	30才以上	4	1	4	2	—	11

A工場の職別では、学歴別では中等以上に「劣る」というものの割合が少し多いが決定的ではなく、年令別では、20才～25才の者が男女の能力差の存在を否定しないものが多くその前後に減少する。

「今の賃銀は男女の能力に比べて、どう思いますか」

第23表　男女の賃銀

		不当に低い	大体つり合いがとれている	女の方が高い	不明	計
	A	62	31	2	6	101
	B	39	46		25	110
A 学歴別	高小以下	43	20	2	5	70
	中等以上	19	11		1	31
A 年令別	20才未満	13	4	1	2	20
	25才 〃	25	17	1	3	46
	30才 〃	16	7		1	24
	30才以上	8	3			11
B 年令別	20才未満	28	36		19	83
	25才 〃	9	4		4	17
	30才 〃	1	3			4
	30才以上	1	3		2	6

という質問に対しては、A工場では、「不当に低い」というものが60%を占め、B工場では35%にすぎないが、これは二つの工場の婦人労働者の賃銀水準がちがい、Bの方が若干高いためである。

（この回答の中には賃銀の男女能力差に対応するしないかよりも、賃銀そのものの低さに対する不満が含まれている）。

年令別にはA工場では全年令を通じ殆んど同じ傾向を示し、B工場では、20才～25才の層が特に賃銀の低いことに不満をもっている。

又学歴別には中等以上より高小以下の層に「不当に低い」と考えているものが多い。

B）家庭婦人について

1）年令と家族構成

対象となった家庭婦人の年令並に家族構成の分布は次表の通りである。

第24表　主婦の年令分布

	20才未満	～30才	～35才	～40才	～45才	～50才	50才～	計
A	7	17	11	8	5			48
B	5	9	3	9	10	2	1	39
計	12	26	14	17	15	2	1	87

第25表　主婦の家族構成一同居家族

		2	3	4	5	6	7	8	9	10	不明	計	平均
人員		9	17	27	14	6	4	3	4	2	1	87	4.55人

特に留意してほしいのは平均世帯人員は4.55人であることである。

2) 居住條件

住居は自宅、借家、寮、借間、社宅の順に多いが、自宅の多いのは若干意外である。風呂は銭湯が圧倒的85%をこえ、飲料水は水道が大部分だが、20%の「井戸」がある。又寮、社宅の多いせいか共同使用が比較的多い。

次に燃料は、ガスと電氣の使用者とは比較的少く、木炭、薪のみに依存するものが半分以上を　　占めている。居住條件として以上のことを念頭において生活時間を分析せねばならない。

第26表　住居の種類一主婦

	社宅	寮	借家	借間	アパート	自宅	不明	計
A	2	10	10	6	1	19		48
B	6	5	9	5	2	11	1	39
計	8	15	19	11	3	30	1	87

第27表　風呂の種類一主婦

	自宅	貰い湯	銭湯	自宅銭湯	記入ナシ	計
A	2	1	41	2	2	48
B	3	4	30	1	1	39
計	5	5	71	3	3	87

第28表　飲料水一主婦

	井戸	水道	井戸水道	不明
A	10	35	2	1
B	3	36		
計	13	71	2	1

第29表　燃料一主婦

	A	B	計
ガス	4	4	8
ガス、電氣、木炭	2	−	2
ガス、木炭	6	1	7
ガス、木炭、薪	3	6	9
電氣、木炭、薪	2	3	5
電氣、木炭		1	1
電氣、木炭、薪		1	1
木炭		4	4
木炭、薪	25	16	41
木炭、他		1	1
薪、茶	6	1	7
その他		1	1
計	48	39	87

3) 睡眠と疲労

睡眠が充分なものと、不充分なものは相半ばしているが、これは男女労働者と本質的に異る傾向であつて、後述する睡眠時間の短いために、又一部は乳幼児の存在するために、労働者の家庭婦人が睡眠不足におちいつているものが多いことを物語つている。

次に層別にみると、年令では30才未満、地位別には「他に18才以上の婦人のいない」場合に睡眠の不充分なものが非常に多い。

疲労については、疲れないというものは3分の1弱であるが、とても疲れるというのが若干名ある。これを労働者に比べると「つかれない」というものの比率が高いが、この主観的な回答だけでは疲労の深さの完全に指標にならならぬことはいうまでもない。

又層別には大きいちがいはない。

第30表 主婦の睡眠は充分かどうか

	計	他に18才以上の婦人あり	他に18才以上の婦人なし	30才未満	30才以上
充分	36	13	23	20	16
不充分	36	7	29	25	11

第31表 疲労するか—主婦

	計	30才未満	30才以上	内職あり	内職なし
とても疲れる	5	1	4	—	5
疲れる	52	20	32	5	47
疲れない	27	11	16	3	24

4) 家事労働

洗濯では大部分のものは家族全部のものをやつているが、婦人の地位別では、他に18才以上の婦人のいない場合には殆んど全員が全部の洗濯を負担している。

洗濯をするのは「休日と平日両方」というものが72名で「主として平日」というのは11名、「主として休日」というものは1名いない。又1週間における洗濯日数は平均6.3回で、分布は1回から28回まであるが、頻度の最も多いのは7回、すなわち1日1回平均である。

裁縫については87名中62名まで全部自分でやり、19名が一部を仕立屋に出しているが、全部仕立屋に出すというものは、わずか1名である。

しかも「他に18才以上の婦人のある」場合には一部を仕立屋に出すというものは少い。

休日・平日の振り合いは、主として休日2名、主として平日15名、どち

第32表　洗濯と裁縫の程度ー主婦

洗濯の程度			裁縫の程度		
	全部する	一部を	自分で全部	全部仕立屋	一部仕立屋
18才以上婦人あり	16人	7人	16人	人	3人
なし	56	3	46	1	16
計	72	10	62	1	19

第33表　夫の家事への手伝の程度

	ふとん	食器	洗濯	炊事	子守
時々	53人	36人	15人	23人	43人
いつでも	15	ー	ー	ー	12
ちっとも	11	28	42	37	7
計	79	74	57	60	62

ムもする63名で、休日、平日を通じてするものが多く、ヨドウエイトをおくものは少いことが分る。

次は炊事をみると、平日、休日を通じて3食炊家庭婦人がやるのが大部分である。

上記の傾向は生活時間調査でも確認されるものであるが、最後に夫が どの程度家事を手伝うかについて示した次の第33表から次のことが分る。

夫が「ちっとも伝わない」のが多いものは、食器片付、洗濯、炊事の三者であつて、布団のあげ下しと子守だけはときどき手伝うものが多い。

又いつでもするというのは布団と子守だけにみられ、他の三者では該当者はいない。 常識的にいわれるものが現実に行われているのであるが、布団と子守を除くと他の場合の「時々手伝う」とは実際には非常に回数の少いものであることは、生活時間調査の結果から推定される。

5) 働きに出る意志があるか－主婦

家庭婦人の働きにでる意志の有無は次表の通りであるが、婦人自身については過半が働きに出度い意志をもつている。

この傾向は先きの男子労働者自身の回答－但し調査対象はちがうが－とは非常に異つたものであるが、この相違は主婦自身は働きたい意志はもつものの、多くの場合現実問題として不可能な條件におかれているに対し、男子はもつと現実の上に立つて回答したと考えるべきであろう。

又他に18才以上の婦人のある場合には働きにでる意志をもつものの割合は高い。

第34表　主婦は働きにでる意志があるか

	働きに出る意志		
	あり	なし	記入なし
18才以上の婦人あり	12	11	一
全上なし	37	24	3
計	49	35	3

次に現在働きにでられない理由の大要を示すと、58名のうち、36名は子供又は乳幼児があるから、子供の教育上などを理由としてあげ、この他子供を一つの理由にしているものは5名みられる。

なかには仕事がない（3名）適当な仕事がない（9名）農耕を手伝っている（2名）病弱（3名）などを理由とするものもあるが、家事よりも子供のことの方が決定的であることは、くり返し強調したい。（家事だけをあげるものは比較的少い）

II) 生活時間の構造

A 労働者の生活時間

1) 勤務日の生活時間の概観

第35表は勤務日の生活時間の概観を示したものである。要点のみをのべると次の通りである。

a) 工場内時間は（入門から出門まで）男子労働者の方が両工場とも長いが、これは主として残業にもとずく。

b) 通勤時間はA，B工場共男子の方が長い。このことは婦人は比較的近いところから通勤していること、なら次にそういう條件でないと勤めが仕難い場合が多いことを示すもの。

c) それ故、通勤と工場内時間を必ると、次の如く婦人の勤務関係時間は男子に比べAでは50分、Bでは43分短い。

	A	B
婦人	432分	630分
男子	682分	673分

d) 睡眠時間は男子共8時間前後であるが同じ工場でみれば婦人の方が短い。しかし工場がちがうと必ずしも当らない。なぜ婦人の睡眠が短いかは家事労働の圧迫があるためである。

e) 食事、身仕度については、前者の時間は婦人が少く、後者は逆に多い。

f) 家事については男女間に隔段の差がみられるが、勤務日の婦人はA111分、B77分をこれにあてている。A，Bで相当の差があるが、これは年令、家族中の地位等がことなっているためである。

g) 内職のための時間は非常に少いが、これは平均化したためであってやっている人のなかには3時間位のものもある。

h) 夜学の時間も平均値である。

i) 娯楽運動の時間は少い。しかもこのさつは男女間に余り差はない。

j) 文化教養のための時間は婦人労働者は3の分近く少い。

k) 休息、雑談は必ずしも一定の傾向を示さなく、余り差はない。

l) 交際の時間は男子の時間がはるかに多い。

第35表　勤務時における生活時間 — 労働者

	時間				%			
	婦人		男子		婦人		男子	
	A	B	A	B	A	B	A	B
睡眠	462分	506分	475分	512分	32.1%	35.2%	33.0%	35.6%
運動	116	68	128	94	8.1	4.7	8.9	6.5
工場内時間	526	562	554	579	36.5	39.0	38.5	40.2
食事	37	37	41	41	2.6	2.6	2.8	2.8
身仕度	55	50	37	42	3.8	3.5	2.6	2.9
家事	114	77	19	18	7.9	5.4	1.3	1.2
内職	7	2	1	5	0.5	0.1	0.05	0.3
夜学	7	13	13	0	0.5	0.9	0.9	0
医療	0	0	1	0	0	0	0.05	—
選挙	1	3	1	1	0.05	0.2	0.05	0.0
文化教養	71	78	99	101	4.9	5.4	6.9	7.0
休息，雑談	38	42	45	34	2.6	2.9	3.1	2.4
交際	6	2	24	13	0.4	0.1	1.7	0.9
その他	0	0	1	0	0	0	0.05	—
計	1440	1440	1440	1440	100.0	100.0	100.0	100.0

2) 休日における生活時間の概観

第36表は休日の生活時間の概観を示すものである。

a) 休日の生活時間は通勤と勤務を合せた10時間乎ないし11時間がなくなるから，根本的に違った構造を示している。

b) 睡眠時間は男女をとわず平日より多いが，やはり婦人の睡眠時間は少い。

c) 食事，身仕度については平日より多いが — しかし工場内での生活時間を考慮すると大差ない — 平日と同じく婦人の身仕度は長い。

d) 家事労働は激増し，男子は2時間前後になるが，婦人は6時間をこえている。休日は婦人労働者にとり家事労働のために存在するといってよい位。

e) 内職，畑作，商売，の時間は休日にはふえるが，男子の方がはるかに多い。しかし1時間をこえることはない。

f) 運動の時間は激増するが、男子の方がはるかに多くの時間をあてている。

g) 文化教養時間は増加するが、婦人は2時間半位であるのに男子は5時間前後である。

h) 睡眠がふえるが、これは疲労のためであり、この限りでオフ・メーマル生活時間となったが、全体としてはさ程多くない。

i) 休憩、雑談は婦人は80分前後、男子は2時間近くで、婦人は比較的少ない。

j) 交際時間は男女共多くなるが、男子の方が多い。

要約すれば、婦人の家事労働の負担は、文化教養、休憩、交際時間を短縮させ、しかも睡眠時間をも短くしている。これは平日、休日をとわず一般的傾向である。

第36表　休日における生活時間 ― 労働者

	時間				%			
	婦人		男子		婦人		男子	
	A	B	A	B	A	B	A	B
睡眠	546分	566分	561分	591分	37.9%	39.3%	39.0%	41.0%
食事	62	63	65	66	4.3	4.4	4.5	4.6
身仕度	82	64	66	47	5.7	4.4	4.6	3.3
家事	396	378	128	94	27.5	26.2	8.9	6.5
内職	18	7	28	49	1.2	0.5	1.9	3.4
学校	—	15	—	11	—	1.0	—	0.8
医療	2	1	1	3	0.1	0.1	0.1	0.2
運動	5	11	30	40	0.3	0.8	2.1	2.8
文化教養	150	174	294	319	10.8	12.1	20.4	22.1
仕事	12	18	30	8	0.8	1.2	2.1	0.6
休憩雑談	91	88	115	100	6.9	6.1	8.0	6.9
交際	72	44	111	110	5.0	3.1	7.7	7.6
その他	23	10	11	2	1.6	0.7	0.8	0.2
計	1440	1440	1440	1440	100.0	100.0	100.0	100.0

第37表　通勤時間の内容

	婦人		男子	
	A	B	A	B
徒歩	40分	38分	42分	42分
乗物	76	30	86	52
計	116	68	128	94

第38表　食事、身仕度－平日－労働者

	婦人		男子	
	A	B	A	B
朝食	15	17	17	18
夕食	22	20	24	22
間食	0	0	0	
計	37	37	41	41
身仕度	30	27	16	21
用便	14	14	11	17
入浴	11	9	10	3
計	55	50	37	42

第39表　食事、身仕度－休日－労働者

	婦人		男子	
	A	B	A	B
朝食	21	21	23	23
昼食	18	19	18	18
夕食	23	23	24	25
間食	2	1	0.3	0.4
計	64	64	65	66
身仕度	30	23	21	16
用便	20	17	17	16
入浴	32	24	27	15
計	82	65	65	47

3) 家事労働について

第40～41表は家事労働の内容を示したものである。

a) 炊事。婦人労働者は平日40分前後、休日には90分以上を炊事のための時間に費している。男子は10分以下である。

b) 婦人は平日には買物の時間は少いが、休日には40～60分をあてている。

c) 婦人の家事労働のなかで最も多いのは、裁縫であって、休日には平均130分をあて、平日でも30分前後みられる。

d) 婦人の平日には洗濯は殆んどされないが、休日には45分前後があてられている。

e) 婦人の掃除は休日には30分をこえる。

f) 家の修理、まきわりなどは主として男子の仕事で婦人は非常に少ない。

第40表　家事労働－平日－労働者

		婦人		男子	
		A	B	A	B
炊事	朝	18	17	1	3
	夕	28	20	2	4
	計	46	37	3	7
買物		10	5	2	0
裁縫		42	25	0	2
洗濯		4	1	—	—
掃除		6	6	2	2
家の修理		—	—	1	—
まきわり		—	—	0	—
授乳		1	—	—	—
子供の対手		1	—	8	3
その他		4	3	3	3
小計		114	77	19	17

第41表　家事労働－休日－労働者

	婦人		男子	
	A	B	A	B
朝	30	33	2	4
炊事	24	28	4	4
夕	38	37	2	2
計	92	98	8	10
買物	60	39	18	28
裁縫	130	135	1	6
洗濯	43	48	10	—
掃除	35	38	12	17
家の修理	4	—	13	2
まきわり	1	1	10	4
授乳	—	—	—	—
子供の対手	11	12	49	7
その他	20	7	6	21
計	396	378	128	94

g　子供の対手の時間は婦人は必ずしも多くはなく、Aの男子が最高である。

h　婦人労働者の家事労働の順位をいえば、裁縫、炊事、買物、洗濯、掃除の順で他は少い。しかしこれは平均値であるから、層別に分析すればちがつた動きを示すであろう。

4) 文化教養と休憩

文化教養の時間は平日、婦人71～38分、男子99～101分、休日婦人150～174分、男子294～319分であるが、その内容を示すと、第42～43表の通りである。

a) 文化教養の時間の大部分は、ラジオ、読書、娯楽、新聞よみの四者で占められているが、その何れも婦人の時間は男子に比べると少い。

b) この差は、平日より休日に多いが、これは婦人に対する家事労働の影響である。

第42表　文化娯楽と休憩－平日－労働者

	婦人		男子	
	A	B	A	B
読書	20	30	25	34
新聞よみ	13	12	19	18
書もの	4	3	3	2
趣味	5	—	11	2
ラジオ	14	24	23	35
喫茶店	0	—	1	—
のみ屋	1	—	1	2
娯楽	14	8	13	9
他	—	—	3	—
小計	71	78	99	101
休憩	17	18	18	13
雑談	21	24	27	21
小計	38	42	45	34

第43表　文化娯楽と休憩－休日－労働者

	婦人		男子	
	A	B	A	B
読書	42	47	71	82
新聞よみ	15	16	33	30
書もの	7	9	11	5
趣味	12	1	30	—
ラジオ	36	67	81	88
喫茶店	1	—	—	4
のみ屋	—	—	—	—
娯楽	36	35	67	110
他	—	—	—	—
小計	150	174	294	319
休憩	30	37	59	48
雑談	40	51	56	52
小計	70	88	115	100

B. 家庭婦人の生活時間

1) 生活時間の概要

第44表について、婦人労働者の生活時間と対比しつつ説明を加える。

a) 家庭婦人の睡眠時間は男女労働者に比べると非常に少ない。これは主として家事労働の負担の関係である。

	婦人			男子	
	家庭婦人	A	B	A	B
平日	453分	462分	506分	475分	512分
休日	495	546	566	561	591

なお、主婦の場合も平日に比し休日の睡眠が長いのは主人が休みのためである。

b) 食事時間は主婦が一番長いが、食事の間で他人の食事の世話をするためもあろう。

c) 家事労働は平日616分、休日514分であつて、労働者の工場内時間に近く、平日のどのは後者をこえる長時間である。主婦の労働は意

[illegible]の[illegible]。又平日の家事労働時間が少いのは賃金の[illegible]増加の影響である。

d) 内職と畑耕作は平日34分、休日20分であって、休日が少い。

e) 学校、医療、運動は平、休日を通じて少い。殊に運動時間は婦人労働者以下である。

f) 文化、教養時間は平日68分、休日90分であって、大体、婦人労働者の平日に近いが、後者の休日に比べると著しく少い。

g) 休息雑談は、平日77分、休日90分であるが、労働者の平日よりははるかに多く、婦人労働者の休日のものに等しい。しかし男子労働者よりははるかに少い。

h) 交際の時間は平日32分、休日73分でその間ひどい相違があるが男女労働者に比べると平日ではるかに多く、休日では男女労働者の中間にある。

i) 総括すれば、平日と休日の生活時間構造のちがいは、休日には、睡眠時間が長く、文化教養、休息、交際時間が増加し、それは主として家事労働の短縮によって補われている。

第44表 家庭婦人の生活時間

	時間		%	
	平日	休日	平日	休日
睡眠	453分	495分	31.4%	34.4%
食事	83	88	5.8	6.1
身仕度	69	62	4.8	4.3
家事	616	514	42.8	35.7
内職	34	20	2.4	1.4
学校	1	—	0.1	—
医療	1	3	0.1	0.2
運動	2	5	0.2	0.3
文化教養	68	90	4.7	6.2
仕事	2	—	0.2	—
休息雑談	77	90	5.3	6.3
交際	32	73	2.2	5.1
その他	1	0	0.1	—
計	1440	1440	100.0	100.0

2) 家時労働時間

第45表は家時労働の内容を示したものである。

a) 主婦の家事労働は、平、休日を通じて最も多いのは炊事と後片付けであって、家事労働全体の約30%を占め、次は裁縫で20%前後、買物10%前後、子供の対手は9%、掃除と洗濯が夫々8%前後を占めている。又授乳期間が5～5.8%あるが、乳児をもつ婦人についてはこの比率は増大する筈である。

b) 休日と平日の家事労働の内容の割合は比較的相似し、根本的にちがうという傾向はみられない。

c) しかし時間でみると、平

休日で相異しないものは授乳、買物であり、若干減少するのは炊事、洗濯その他であり、差の著しいのは、裁縫、掃除、子供の相手などである。この変化は、主として主人の在宅にもとずくものである。

d) 炊事と片付けは平日181分、休日169分であるが、夕食が最大で、朝食は中間、晩食は最も少く夕食の半分にもみたない。

e) 買物は約1時間をあてている。

f) 裁縫は、146分と97分であるが、婦人労働者の休日は此の中間にある。

g) 洗濯と掃除は45分前後

h) 子供の対手は50分前後

第45表 家庭婦人の食事 身仕度

		平日	休日
食事	朝	24分	29分
	晝	23	24
	夕	34	34
	間食	1	1
	計	82	88
身仕度	身仕度	23	25
	用便	24	21
	入浴	20	16
	他	2	—
	計	69	62

第46表 家庭婦人の家事労働

		時間		%	
		平日	休日	平日	休日
炊事片付け	朝	63分	60分	10.2%	11.6%
	晝	35	36	5.7	7.0
	夕	83	73	13.5	14.2
	計	181	169	29.4	32.8
買物		58	56	9.4	10.9
裁縫		146	97	23.7	18.8
洗濯		46	41	7.5	8.0
掃除		53	40	8.6	7.8
家の修理		—	2	—	0.4
まきわり		2	3	0.3	0.6
授乳		31	30	5.0	5.8
子供の対手		59	42	9.6	8.2
その他		41	35	6.6	6.8
計		616	514	100.0	100.0

3) その他

a) 畑仕事は平日22分、休日15分で比較的多い。又内職も12分と5分であるが、内職するものの場合は、ずっと多いことはいうまでもない。

b) 文化、教養の時間のうち多いのは、平日はラジオ、新聞よみ、読書が多く、休日ではラジオ、新聞よみ、娯楽が多い。殊に平日では娯楽は殆

とないが、休日のみ多いこと、読書は逆に休日が少いこと、新聞よみの時間は比較的固定し、ラジオは休日が多い。

c) 婦人労働者に比べると、主婦の読書、ラジオ、娯楽などの時間ははるかに少く、主婦の文化的生活内容の低いことが分る。これは主として家事労働の負担が余りにも大きいためである。

d) 主婦の休息と雑談の時間は比較的多く、特に雑談が多い。又平日に比べると、休日の方がより多いという傾向が知られる。

第4ケ表　内職、文化

休息－家庭婦人

		平日	休日
	畑仕事	22分	15分
	内職	12	5
	小計	32	20
文化・教養	読書	16	8
	新聞よみ	21	17
	書きもの	5	6
	趣味	—	—
	娯楽	1	17
	ラジオ	24	33
	喫茶店	—	1
	飲食屋	—	8
	小計	67	70
休息	休息	26	32
	雑談	50	58
	小計	76	90

追記

生活時間の分析は以上で終つなわけではなく、現在層別に分析するため集計中である。本報告では、年令別、既婚、未婚別、婦人の地位別、乳児有無別、内職有無別、通勤時間別、金、土別等の層別に分析する予定である。